

前川 喜平 (慈恵医大小児科)
落合 靖男 (沖縄整肢療護園中部分園)
諸岡 啓一 (東邦医大小児科)
青木 徹 (越ヶ谷保健所)
島中 裕幸 (国立療養所南九州病院)
松石 豊次郎 (久留米大小児科)
庄司 順一 (母子保健院)

I 共同研究

精神発達遅滞児早期発見のためのチェックリストの作成

共同研究として我々は精神発達遅滞児早期発見のためのチェックリストの作成を行なった。その対象及び使用法としては次に述べる項目をした。

- ① 2才以下の小児を対象とする。
- ② 2次健診で使用する。
- ③ 問診でチェックし、これで疑いのあるものを診察で確認する。すなわち問診に重点を置く。

初年度は試作チェックリストを作成し、これを班員で使用し、この使用結果をもとにして更に改正し、今年度はこれを使用してその有効性の確認を行なった。そしてここに掲載してあるようなチェックリストを作成した。

チェックリストの問診部分は、精神発達遅滞の早期発見のための問診項目と、補助的な運動発達の確認の部分よりなっている。診察項目は、問診で異常がみられた時にこれの確認のためのものである。さて我々の実際の使用経験より本チェックリストの使用には以下のことが言える。

- ① 問診の異常を診察結果より重要視する。沖縄の落合の結果より、小児科医が乳健を行なっても問診項目を重要視した方が、診察結果よりよい結果が得られている。松石は本チェックリストを3~4カ月児の1次健診に使用したが、もし問診一項目以上のものを異常として経過観察すると、異常発見率は98%以上である。それ故、本チェックリストを使用した時は、項目が1つ異常がみられたら慎重に診

察し、経過観察を行なう心がまえが必要である。

- ② 問診の異常以外に診断に役立つもの。痙攣発作、頭囲の異常、特異な顔貌などは問診で異常がなくても、或は問診の異常項目が1つでもこれらの小児は経過観察を行なった方がよい。このことは前川の結果よりも明らかである。
- ③ 本チェックリストは、3カ月~1才6カ月頃の小児の精神発達遅滞チェックに有効と思われる。前川のハイリスク児の使用でも1~2カ月では有効性がみられなかった。

チェックリスト使用法

1. 生後3~20カ月の小児に使用される。
2. 2次スクリーニングにおいて使用されることが望ましいが、1次で使用してもよい。
3. 診察所見より、問診項目の異常に重点を置いて判定する。この場合、二項目以上の異常は要観察だが、一項目でも運動発達の遅れや頭囲の異常、痙攣発作などが存在する時は慎重に扱う。
4. 使用前に本チェックリスト内容の講習を受けることが望ましい。

結語

我々が作成した精神発達遅滞児のチェックリストは3~20カ月の小児に有効で、問診項目の異常に重点を置けば、2次スクリーニングとして充分使用されるものと考えられる。

ただし、今後一般にこれを普及するためにはこれのための講習会が必要であると共に使用結果をもとにして更にリストの改正が必要と考え

られる。

氏名 医療機関： 生年月日 年 月 日
性 検査日 年 令
診断 年 月
年 月
年 月

I 問 診

1. 眼で物を追いますか (3M)
2. あやすと笑いますか (3M)
3. 母親が呼びかけるとふり向きますか (4M)
4. 例えば、ガラガラなどを持たせると振ったり、眺めたり、口へ持っていったりしますか (4M)
5. 母親と他人との区別がつかますか (4~5M)
6. 手を伸して欲しいものをつかみますか
7. 鏡をみて笑いかけたり話しかけたりしますか (8M)
8. 何か欲しい物があると声を出して欲しがりますか (7~8M)
9. 「いけません」と言うと手を引っこめて親の顔をみますか (9M)
10. 「イヤイヤ」「バイバイ」「ニギニギ」などの物真似動作をしますか (10M)
11. 誰れも側にいない所で、母親がでていくと、後をおったり、泣いたりしますか (11M)
12. クシ、ブラシ、スプーンなどを使っているのを見ると欲しがり、与えると真似して使おうとしますか (12M)、*またはスプーンですくおうとしますか、自分でコップを持ってこぼしながらも飲めますか (12M) (*どちらの質問でも良い)
13. 「ママ」「マンマ」「ワンワン」など意味のある単語を言いますか (14M)
14. レイズンなどの小さいものを指先でつまみますか (15M)
15. 積木を1つか2つ、つめますか (15~16M)
16. 絵本をみて、「ワンワン、ニャーニャー」など知っているものを指さしますか (18か月)
17. 「おめめ」「おみみ」など身体の主な部

体が1つわかりますか (20か月)

II 運動発達

1. 首がすわる (4M)
2. 寝がえりをする (6M)
3. 支えなしで1分以上お坐りする (7M)
4. 自分でつかまって立ちあがれる (9~10M)
5. ハイハイする (9~10M)
6. 1人立ちする (12M)
7. 1人歩きする (14M)

*参考問診

1. ミルクの飲みが悪いですか
2. 体が柔いですか
3. 動きが不活発ですか、おとなしいですか

III 診察 (一般医・小児科医) 手引書を参考とする。

1. 追視テスト
問診、顔つきなどより明らかに追視が確認されたものは省略しても良い。
2. 音に対する反応
月令相当の反応が明確なものは省略可。
3. 物をつかませる、周囲に対する関心、反応をみる。
 - ① ガラガラを握らせる。
 - ② 物をみせてつかませる (1辺3cm立方体の積木)
 - ③ 顔に布をかける。
*発達状態に合わせて、この中の1つをおこなう。
*つかみ方は必ず両側をチェックする。
4. 運動発達の確認
定額、坐り、歩行
*疑わしい症例にのみおこなう。
5. 身体計測 (身長、体重、頭囲)、大奇形のチェック

IV 判 定

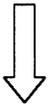
問診項目で月令相当の項目が1項目以上できない時は精神発達遅滞の疑いが持てるので診察をおこなう。一般に精神発達遅滞児は重症度に比例して運動発達が遅れるので、運動発達の質問も参考としておこなう。身体が柔い、動きが鈍いの質問は、陽性ならMRの疑いが更に強まる。

V 措 置

精神発達遅滞の疑いのあるものについて
は、経過観察、精査、専門医を受診させる。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1 共同研究

精神発達遅滞児早期発見のためのチェックリストの作成

共同研究として我々は精神発達遅滞児早期発見のためのチェックリストの作成を行なった。

その対象及び使用法としては次に述べる項目をした。

2才以下の小児を対象とする。

2次健診で使用する。

問診でチェックし、これで疑いのあるものを診察で確認する。すなわち問診に重点を置く。初年度は試作チェックリストを作成し、これを班員で使用し、この使用結果をもとにして更に改正し、今年度はこれを使用してその有効性の確認を行なった。そしてここに掲載してあるようなチェックリストを作成した。